



河邊 満代さん
元・附属幼稚園 保護者会副会長
／中学・高等学校OG



玉井 恵津子
附属幼稚園 教諭



小野山 佳代
附属幼稚園 教頭

鼎談特集

～これからの時代を創る女性として～

女性の一生の中での 「子育てとの向き合い方」

3歳から5歳という、最も多感なこの時期をわが子とどのように向き合って過ごすか。

子どもにとってはもちろん、母親として、また一人の女性として

自らの一生を考える上でも、とても大きなテーマの一つになります。

今回の特集では、本学園の附属幼稚園に3人のお子さんが通われた
河邊満代さん(元・附属幼稚園保護者会副会長)と小野山教頭、玉井教諭の鼎談を通して、
「女性の一生の中での子育てとの向き合い方」について、考えてみたいと思います。



Theme-1

3歳から5歳の子どもに対して 保護者と幼稚園が育むべきものとは？

「子どもの気持ち」を優先して幼稚園へ

小野山 河邊さん、お久しぶりです。3年おきに3人のお子さんをお預かりしましたので、長いお付き合いでしたが、その後、お変わりはありませんか？

河邊 はい、おかげさまで3人とも元気になっています。長男はもう高校生なんです。でも、最初にこちらへ見学に来た日のことは、今でも鮮明に覚えています。

玉井 本園とのご縁は全くの偶然だった、とか…。

河邊 そうなんです。大学卒業後、製薬会社に勤め、結婚

後は、実家が経営している老人ホームを時々手伝っていたのですが、長男の出産を機に育児に専念しました。その長男が3歳になった頃、「仕事を始めよう」と、あちこちの保育園を見て回りましたが、どこを見学しても長男は「行きたくない」の一点張り。そんな時、たまたま知り合いの方が「筑女の幼稚園を見てきたら？きつ」とお子さんに合うと思うわよ」と勧めてくれました。

玉井 仕事をしてお母さんにとつては、時間的なことを考えると、保育園を選択したいです。なのに幼稚園とは、かなりの方向転換だったのではな

いですか？

河邊 ええ。でも、どこの保育園を見学しても「行きたくない！」と言っていた長男が、「ここに行きたい！」と初めて言ったのが、筑女の幼稚園だったんです。私にとつて、仕事のこととはもちろん大切でしたが、一番大事な「子どもの気持ち」を優先して、入園することにした。その後、2人目も3人目もこちらでお世話になったので、結局復職したのは末の子が小学校に入った年でした。それまでは仕事のこととは全く頭になく、子育てに慌ただしい毎日を通して、

小野山 ご長男は

本園のどこを気に入ってくれたんでしょうね。覚えていらつしやいますか？

河邊 もちろんです。ある意味、私にとつて「感激！」の瞬間でしたから。初めて見学に伺った時

に、うちの子が園庭の入口に立っていると、すぐに在園児の子たちが「こっちにおいで」。一緒に遊ぼう！とつて、それも一斉に誘ってくれたんです。それまでに見学したところでは「知らない子が来た」という感じで遠巻きに見ていることが多かったの、息子は中に入り、くいきい雰囲気を感じていたんでしようね。よほど嬉しかったのか、走ってみんなの輪の中に飛び込んでいきました。私にとつても、今までに忘れられないシーンです。

安心できる「場所」と「人」に囲まれて、伸びやかに

玉井 昔も今もそうなんです。私はここが開設（昭和47年）されて間もなく着任しましたが、その頃から子どもたちがホントに「安心」して過ごせる園だと感じていました。園児たちは自分たち自身がここで安心していただけるから、自然とまわりを受け入れることが

できるんだと思います。安心できる場所で、信頼できる人に囲まれていると、子どもたちは互いに垣根を作りません。

小野山 私が勤めはじめた時には、それが既に当たり前になっていました。子どもたちの「今」をどうやって見守るべきか、先生方一人ひとりが全員で真剣に考え、保護者の方々とコミュニケーションを大切にしながら、毎日、試行錯誤する、それが本園の伝統だと思います。また、このような伝統は、玉井先生のように子育てを終えた経験豊富な先生方が、たくさん戻ってきて支え続けていただいているからこそ、途絶えることなく、今も続いているんだと思います。

河邊 幼稚園は、初めて親と離れて過ごす場所なので、子どもにとつては安心できることが何よりも大切です。とても楽しそうに幼稚園へ通うお兄ちゃんを見て、すぐ下の子は「3歳になったら幼稚園に行ける！」と楽しみにしています。

Keywords

① 【子育てを終えた経験豊富な先生方】

本園では現在、約250名の園児に対し、24名の教諭で日々の保育にあたっています。このうち9名の非常勤講師の多くは専任教諭として勤務したのち、自らの子育てを終えて本園へ復帰し、各クラス担任の運営をサポートしています。また、この他に専任の養護教諭が1名常駐し、複数の目で子どもたちの活動を見守っています。



② 【「自ら見つけ、創造し、挑戦する」本園での取り組み例】

絵本の読み聞かせ

毎日の読み聞かせて、子どもたちの心に楽しさの宝物が蓄えられ、聞く、読む、読み取る、考える力の基礎が知らず知らずのうちに身につきます。



「熱い」思いが語られました。





幼稚園の教室で行われた今回の鼎談。予定の2時間を大幅に超えて、それぞれの

子どもが興味を持った瞬間を見逃さないこと

た。親から離れたくなくて、登園時にぐずる子の話をよく聞きますが、おかげでうちはまったくその心配がありませんでした(笑)。

玉井 見学に来られた方から「こちらの園児はみんな人懐っこいですね」思いやりがありますが、そのような話を聞くと、私にはとても嬉しくなりま

す。子どもたちは自分自身が楽しいので、仲間を増やしたくなるでしょうね。きつと他の園児たちも息子さんと同じような経験をしてるんだと思います。だから、ここでは「知らない子でも一緒に遊ぶのが当たり前」と無意識に感じているのではないのでしょうか。

河邊 私自身は、筑女の中学・高校の卒業生でしたが、先ほど申し上げたように、保育園への入園しか考えていなかった

ので、筑女の幼稚園に対する予備知識は全くありませんでした。ただ、イメージとしては「短期大学の附属幼稚園だし、勉強的な部分なんかもとて熱心なのは…」と思っていました。でも、実はとても自由な教育方針なんですよね。勝手なイメージだったとはいえ、そのギャップにはかなり驚かされました。

小野山 まず、時間を決めて一斉に何かをさせるというこ

とがありませんからね。自分のやりたいことを自分で見つけて、そこから学ぶのが本園のスタンスです。子どもたちはいろんな力を持っています。だから、何でも教えてやらせれば、たいいていのはできるのですが、「やらせてで

きる」ことよりも、「自ら見つけ、創造

し、挑戦すること」の方が大切なんじゃないでしょうか。たとえば、その結果が思い通りのものではなかったとしても、先々の成長のために「自ら考えること」とはとても大事なことですし、それができる環境を与え

てあげたいと、常日頃から思っています。子どもは興味を持ったときが、一番伸びるときですからね。

河邊 私も同じ考えなので、ほとんど勉強などさせたこと

はありませんでした。それと、園では絵本をたくさん読んでくださるでしょ。私も家ではなるべくたくさん読んであげるようにしていました。おかげで平仮名は全部絵本で覚え



Profile

河邊 満代さん

かわべ・みつよ ● 本学園中学校・高等学校から福岡大学薬学部に進み、薬剤師の資格を取得。結婚後は実家が経営する老人ホームを手伝い、第一子の出産を機に専業主婦へ。3歳違いの3人の子どもが本学園附属幼稚園に通う間、保護者会副会長を務めたことも。第三子の就学後に薬剤師として復職。その後は家庭の状況を鑑みながら勤務が続けている。

す。絵本を読んでもらっている時の子どもたちの表情は真剣そのもの。こつちも思わず力が入ってしまいます(笑)。そんな子どもたちから私たち教員自身が教えられることもたくさんあります。



「やらせてできること」より「自分で見つけ、挑戦すること」が大事です。(小野山)

主体性をもって活動するために多くの目が必要

河邊 そうなんです。あと、長男が小学校に入学した頃のことですが、自分の名前を漢

字で書ける子が周りに結構いたようで、入学当初はそのことに劣等感を持っているようでした。少しぐらい教えておけばよかったかな、とは一瞬思

いしましたが、自分で考えて何かを見つめるのは得意中の得意で、その力を発揮したのでしよう。3、4年生ぐらいからは漢字だけでなく、いろんな知識をぐんぐん吸収していきま



★カプラ(KAPLA) 1988年にフランスで発売以降、世界各国の玩具賞を受賞した知育玩具。大人の手のひらに乗るほどの細長い同じサイズの白木の板を自由に積み上げたり組み合わせることで様々な形を作り出せる。創造力、集中力、器用さを養う「魔法の板」として、日本でも教育現場を中心に採用されている。

お部屋さん(いっしょ) 店屋さんが開店!お客さんを迎えるために、子どもたちの頭がフル回転し、生き生きと遊びが展開します。





玉井 3歳から5歳は、子どもその後の成長を考える上で、最も大切な時期です。それにこの頃の子どもたちは純粹で、人の愛情や優しき、想いをまっすぐに受け止めます。親や周りにいる大人たちが真剣に子どもたちと向き合い、愛情一杯にじつくりと関わり合うことで、子どもはその後

も着実に育つていきます。**河邊** 母親としての大先輩でもある玉井先生のような方が多くいらつしやることも、親にとつてはこの園の安心につながっているんだと思いますね。

小野山 卒園児や在園児の保護者の方々から「丁寧に子どもたちのことを見てくれるから安心」と評していただくことも多々あります。各クラス担任だけでなく、職員全員で一人ひとりの子どもたちを見守っているからでしょうか。他園に比べ、職員の人数が多く、手厚いのも確かです。子どもたちに主体性を持って活動させるためには、多くの目が必要ですからね。自由にさせながらも、危険なことや間違ったことを見逃さないことが大切なんです。「自由」と「放任」は違いますから。

Theme-2

子育てと仕事。母として、一人の女性として見つめるものは？

一歩踏み出す「勇気」になった周りのサポート

小野山 ところで河邊さんは、現在、薬剤師としてお勤めなんでしょうね？

河邊 子育ても一段落して、子どもから手が離れられるようになると、仕事への思いが改めて増してきました。でも、実際に働き始めると、子育てとの両立が結構大変。上の子たちの進学、夫の単身赴任、子どもたちの部

活動のサポート、それにPTAの役員が重なった時期は、2、3日寝込むこともありました。

玉井 うちも野球とバスケットボールをしていたので、よく分かります。そんなに重なって、心身ともに持ちませんよね。私も長年、義母の介護を続けていたこともあり、両立することの難しさや大変さをしみじみ感じたものです。

小野山 そんな大変な思いをしても仕事を、とお考えになつたのはなぜですか？

河邊 下の子が小学校へ上がり、昼間の時間に余裕が出てくると、急に世の中に置いていかれているような気がして……。子どもたちとしつかり向き合いたいとの思いから、仕事を辞めて子育てに専念したこと自体は、私にとつても、子どもたちや家族にとつても本当に良かったと思つています。ただ、このままでもいいのかなつて。

玉井 分かります、その気持ち。子どものおかげで、人生が何倍も豊かになったと思います。(玉井)



子どものおかげで、人生が何倍も豊かになったと思います。(玉井)

小野山 佳代 教頭

おのやま・かよ ● 本学園短期大学(現 大学短期大学部)幼児教育科卒業後、本園に幼稚園教諭として着任。昨年度(平成24年度)から教頭に就任し、現在に至る。園の運営全般について、教職員や保護者の皆さんと関わりながら、母校の幼児教育科の学生に対する講義を定期的に行うなど、後進の育成にも力を注いでいる。



ランクの間に新薬がたくさん出ていたりして、覚えたり習わなければいけないことはたくさんありましたが、「何もしなければ、何も始まらない」という友達言葉が背中を押して

くれました。**小野山** 何かを始めようとするときに、周りのサポートがあると、本当に気持ち楽になりますよね。一歩踏み出す勇気を後押ししてもらえます。

河邊 ええ、その通りです。ダウンしてしまったときには、夫と近くに住む両親が助けてくれましたし、幼稚園で子どもを通じて知り合った友達もたくさんアドバイスしてくれま

③ 【「たんぼ」&「どんぐり」「たけのこ」】

降 園後の所用、緊急の用事の時などに「一番安心できる場所を」という考えから、在園児を対象とした預かり保育「たけのこ」を実施しています。また、未就園児を対象とした保育として「たんぼ」(週2回)、「どんぐり」(スポット利用)コースも併せて実施し、保護者の皆様の子育てを応援しています。



詳細は本園ホームページ<http://www.chikushi.ac.jp/knd/>をご参照ください

④ 【子育て支援機能を強化】

本 学園大学の教員による「子育て相談」や「発達相談」園内で実施する「教育講演会」などを随時実施し、保護者の方々の不安や悩みの解消につなげる機会を多く設けています。また、ほぼ毎日更新されるブログ「みてみて！元気な筑紫っ子」では、その日の園児たちの様子を写真入りで紹介し、在園児の保護者の皆様に好評いただいています。

した。それで気がつきました。社会に取り残されているような気持ちになっていたけれど、実は子育てを通して、私の世界はかなり広がっていたんだな。実は、今の仕事も、幼稚園のママ友に紹介してもらったんです。

玉井 子育ては大変なこともいっぱいあるけれど、楽しいこともいっぱい。子どもと一緒に泣いたり、笑ったり、感動したり。そんな日々があったからこそ、自分の人生が何倍も豊かなものになったと思います。子どもとしっかり向き合って子育てを行うことで、母として、人として、女性として成長できたと思いますし、私の場合は、結果的に子育てを一生懸命やったことが、幼稚園教諭としてのさらなるスキルアップに繋がりました。それに今では、成長したわが子が私の仕事に対する一番のよき理解者になってくれますしね(笑)。

社会の変化にともない 徐々に女性が 働きやすい環境に

河邊 育児をする「イクメン」が増えたり、街中に託児所が増えたりしていることもあり、



子育て時代の葛藤を乗り越えることで 「次」に進むことができました。(河邊)

女性として子育てに向き合う際の選択肢は、以前よりかなり増えていると思います。少しずつ働きやすくなっているように感じます。

小野山 人口が減少し、社会の担い手としての労働力が不足していく中、国や県などでも女性の就業を促進するための支援をさらに活発化させるようになってきました。また、園の行事でも、昔に比べると比べ物にならないほど、お父様方が積極的に参加されています。これからは、女性が育児のために自らのキャリアを中断させることなく、子育てできる環境がもっともつと整っていくことではないでしょうか。

河邊 とはいえ、子育てをしながら仕事をするとすると、幼稚園や保育園のサポートは欠かせませんね。保育園では、0歳から2歳までのクラスに空きがないと聞きました。仕事に復帰したいと考える人が多い時期だけに、悩んでいるお母さんも多いようです。

小野山 幼稚園をその受け皿に、という動きもありますが、設備や体制、法制度上の問題などもありますし、慎重に考えなければいけないと思っています。また、預かる時間の短さや、園をお手伝いいただく機会の多さなどから考えると、働くお母さんにとって幼稚園は、まだまだ制約も多いかと思えます。本園としては「たんぽぽ」や「どんぐり」、「たけのこ」などを通して、できる限りの対応を行っています。さらに大学(短期大学部)が併設する幼稚園として、保護者の方々の悩みや不安を少しでも解消できるように、子育て支援機能を強化するなど、今後とも保護者の方々が、子どもたちを園と一緒に育てていくサポートを行っていきたいと思います。

玉井 先ほどもお話ししましたように、3歳から5歳はとて大切な時期なので、保護者の方々には一緒にいる時間を大切にしたいですね。それは長さの問題ではなく、限られた時間でも、楽しいことを一緒にするひとときや、話をちゃんと聴いてあげる時間さえあれば大丈夫。お風呂の中でお話ししてくれたり、たとえ短い時間でも、子どもの話を聞き流さずに目を見て向かい合ってくれた想い出を、子どもは必ず大事にして成長していくことだと思います。

小野山 そうやって、お母様方も子どもと一緒に育っていくのかもしれないですね。

玉井 ええ、そして子どもが少しずつ独り立ちしていく姿今思っています。

を見ながら自分の生き方にも目が向くようになるんです。私は「何か人や社会の役に立つことを」と考えて、大好きな幼稚園という職場に戻りました。子育てが、復職のための準備期間にもなったように思います。

河邊 仕事を再開した当初は、日進月歩の医療の世界に戻って、浦島太郎の気分でした。でも、今は若いスタッフの方々にもいろいろと教えてもらいながら、とてもやりがいを感じています。仕事が楽しいんですよ。社会で生きていく上で、バランスを取るのとても難しいことではありますが、子どもへの視点も今の仕事に活かすことができている気がして、これが私の生き方なんだな、今思っています。



Profile

玉井 恵津子 教諭

たま・えつこ ● 本園 短期大学(現 短期大学部)幼児教育科卒業後、本園に幼稚園教諭として着任。子育てのため一旦退職後7年間のブランクを経て、本園の非常勤講師として復職し、現在に至る。幼児教育経験は30年を超える本園のベテラン教員。

小野山 今日お二人とお話して、子育ては、文字通り子どもを育てるだけでなく、子どもと親の両方に「生きる力」を与えることが出来るんだと、私自身、再確認することができました。これからも、そんな保護者の皆さんのお役に立つことができるよう、頑張りたいと思います。本日は貴重な時間をいただき、ありがとうございました。



ブログで紹介される園児たちの様子。



子育て支援の一環として園内で行う保護者会主催の講演会。

